



環境活動報告書

ENVIRONMENTAL REPORT 2015



2015 年度



I	2015年の環境目標の達成状況	1
II	環境目標達成状況	4
III	省エネルギーへの取り組み（CO2排出量の推移）	6
IV	省資源化への取り組み（廃棄物排出量の推移）	7
V	環境関連法の順守状況	8
VI	各サイトの法令順守状況について（四日市AC）	9
VII	各サイトの法令順守状況について（松阪AC）	12
VIII	各サイトの環境活動への取り組み状況（四日市AC）	16
IX	各サイトの環境活動への取り組み状況（松阪AC）	19
X	各サイトの環境活動への取り組み状況（本社）	22
XI	法順守及び顧客に寄与する環境活動への取り組み	25
XII	地域の環境保全活動に関する取り組み	28
XIII	サンゴ礁の再生と創造への取り組み	29

環境方針 Sustainability

顧客とともに『地域の環境保全を担う』理念のもと

私たちの社会の持続的発展のために

- 事業活動の環境負荷を継続的に把握・評価します
- 環境法規制を遵守し、遵守に寄与する情報・技術の提言と成果の波及に努めます
- 省資源・省エネルギー・廃棄物の3Rやグリーン調達を進め、環境負荷低減に努めます
- 地域社会や国際社会に積極的に協力し、環境汚染の防止と環境負荷低減への貢献に努めます

私たちの活動の維持と進化のために

- 持続的発展活動を確実に行う仕組みを作ります
- 成果としてどうなるべきかを目標設定します
- 仕組みと目標を皆で共有します
- 仕組みが機能しているかを確認します
- 目標の進捗と地域への貢献度に注視します
- 仕組みの改善を常に行います
- 常に「さらに良く」を追求し高次元化します

①環境法順守率100%の達成		達成度		評価
全社	環境関連法令に対応できる社内体制の確立	100%	→	○
四日市分析センター	法規制基準の順守率100%を目指す 改正フロン法への対応	100%	→	○
松阪分析センター	環境法順守率100%の達成 改正フロン法への対応	100%	→	○
②環境負荷と環境貢献を取り入れた環境報告書の作成		達成度		評価
全社	環境レポートの充実及び活動情報の積極的公開(環境レポートのWeb公開)	継続実施中	→	○
③環境関連設備の管理システムを維持改善する		達成度		評価
四日市分析センター	環境関連設備の管理システムの維持改善	100%	→	○
松阪分析センター	環境関連設備の管理システムの維持改善	100%	→	○
④自社利用資源の削減(業務効率を高めながらエネルギー使用量を削減する)		実績値	達成度	評価
全社	2013年の年間実績値 504t に対して2%削減(CO2換算10.1t)する	-4.3t	0.8%削減	→ ○
本社	2013年の年間実績値 49.5t に対して1%削減(CO2換算0.50t)する	-1.7t	3.4%削減	↑ ◎
四日市分析センター	2013年比で粗利1万円に対する二酸化炭素の排出量を2%削減する(6.05kg/1万円から6.00g/1万円へ)	5.99kg	1.0%削減	→ ○
松阪分析センター	2013年比で粗利1万円に対する二酸化炭素の排出量を2%削減する(5.70kg/1万円から5.58kg/1万円へ)	4.46kg	21.8%削減	↑ ◎
⑤自社利用資源の削減(廃棄物削減3R活動の恒常的实施)		実績値	達成度	評価
全社	2013年の年間実績値 11791kg に対して2%削減(絶対量236kg)する	+507kg	4.3%増加	↓ ×
本社	廃棄物削減の3R活動の恒常的活動を実施し、2013年の廃棄物排出量の1%を(4.3kg)削減する	+23kg	5.3%増加	↓ ×
四日市分析センター	廃棄物削減の3R活動を恒常的に実施し2013年の粗利1万円に対する廃棄物排出量を2%削減(175g/1万円から172g/1万円へ)する	176g	0.6%増加	↓ ×
松阪分析センター	廃棄物削減の3R活動を恒常的に実施し2013年の粗利1万円に対する廃棄物排出量を2%削減(86.3g/1万円から84.6g/1万円へ)する	72.5g	16.0%削減	↑ ◎
⑥顧客(地域・地球)の法順守と貢献活動及び環境負荷提言		実績値	達成度	評価
営業部	社会貢献活動への参加 2件/年	3回	100%以上	↑ ◎
営業部	環境管理情報の収集と顧客への提供 セミナー1回/年 かわせみ継続	継続実施中	100%	→ ○
⑦環境負荷低減設備の販売に基づく二酸化炭素削減への貢献		達成度		評価
営業部	環境負荷低減に繋がる設備販売によるCO2削減への貢献	ボイラ2台更新 CO2 267t/年削減貢献	→	○

⑧環境汚染・環境負荷低減に繋がる分析商品の販売		達成度		評価
営業部	環境汚染監視・改善に繋がる新分析分野の提案、受注	売上目標達成		↑ ○
⑨チームタケエイにおけるアスベスト一括請負システムの構築		達成度		評価
営業部	アスベスト一括請負システムの提案資料作成、PR活動	資料作成、提案継続中		→ ○
⑩全社員を巻き込んだEMSの進化(改善)		達成度		評価
全社	ペットボトルキャップ回収活動への参加 目標4700個	6867個	46%	↑ ◎
本社	ペットボトルキャップの回収活動実施によるワクチン提供活動を行う(キャップ1000個)	1165個	17%	↑ ◎
四日市分析センター	電池類の廃棄方法の見直し実施	活動実施中		→ ○
四日市分析センター	屋上緑化における環境意識の向上(植栽数31本)	100%以上 植栽数40本		↑ ◎
四日市分析センター	ペットボトルキャップの回収活動実施によるワクチン提供活動を行う(キャップ2000個)	2970個	49%	↑ ◎
松阪分析センター	ペットボトルキャップの回収活動実施によるワクチン提供活動を行う(キャップ1700個)	2732個	61%	↑ ◎
松阪分析センター	使用済み電池の回収の推進	活動実施中		→ ○
松阪分析センター	エコ検定受検の推進	合格者1名		↑ ◎
営業部	ペットボトルキャップの回収活動実施への参加	活動実施中		→ ○
営業部	電池類の廃棄方法の見直し実施	活動実施中		→ ○
営業部	社員参加による自然保護活動の推進参加	気候変動キャンペーンの Fun to Share賛同宣言		→ ○

自社利用資源の有効活用については、エネルギー・廃棄物削減ともに粗利益をもとに原単位換算したもので評価した。具体的には資源生産性という指標を用い、粗利益1万円を捻出する活動に対しての二酸化炭素の発生量及び廃棄物の発生量を把握したものをを用いて評価した

◆エネルギー使用量に対する資源生産性

単位: kg

サ イ ト	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	前年比
四日市分析センター	6.55	6.09	6.05	6.39	5.99	-6.3%
松阪分析センター	5.85	6.16	5.70	5.18	4.46	-13.9%

◆廃棄物削減に対する資源生産性

単位: g

サ イ ト	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	前年比
四日市分析センター	166.5	188	175	188	176	-6.6%
松阪分析センター	82.8	93.6	86.3	82.7	72.5	-12.3%

◆エネルギー使用に伴う二酸化炭素の絶対量

単位:t

サ イ ト	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	前年比
本 社	45.7	47.6	49.5	48.7	47.8	-1.9%
四日市分析センター	329.5	320.4	329.2	336.6	343.7	2.1%
松阪分析センター	137.2	137.2	125.5	114.9	108.4	-5.7%
全 社	512.4	505.2	504.2	500.2	499.9	-0.1%

◆廃棄物削減の絶対量

サ イ ト	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	前年比
本 社	516	468	435	428	458	7.0%
四日市分析センター	8376	9886	9516	9902	10079	1.8%
松阪分析センター	1937	2083	1840	1833	1761	-3.9%
全 社	10829	12437	11791	12163	12298	1.1%



■ エネルギー資源に対する活動について

エネルギー使用に伴う二酸化炭素の削減は全社目標値の二酸化炭素の排出量10.1tの削減目標(削減率2%)に対して、4.3tの削減に留まり目標値は達成することが出来なかった。

各サイトの傾向としては、本社はガソリン、電気ともにほぼ横ばいで推移し、四日市ACはガソリン電気ともに微増傾向であり、松阪ACはガソリン、電気ともに減少傾向が続いています。

特に松阪ACでは2013年導入の純水製造装置の効果が継続しており、設備導入後41558kWhの削減と1KWhの電力を20円とすると83万円の経費節減に繋がっています。

またこの効果は水道使用量にも顕著にでており、四日市ACで5668m³→3778m³と1890m³の削減、松阪ACで2141m³→960m³と1181m³の削減と両センターで3071m³の削減となり、水道料金を上水300円 下水250円とすると169万円と大きな経費節減に繋がっています。

■ 廃棄物削減に対する活動について

全社目標値である236kgの廃棄物削減目標に対して、507kgの増加と目標値を大きく超過し達成することが出来ませんでした。

各サイトの傾向として、本社では2011年の516kgをピークに減少していたが、2013年以降は増加傾向となっています。四日市ACは産廃は減少傾向であるが多くを占める一般廃棄物が増加しているため全体としては増加傾向であるが、松阪ACのみ減少傾向での推移となっている。この要因としては環境活動宣言による意識向上の定着化や、四日市ー松阪間の運搬で用いられる通い箱を専用ケース化するなどの取組活動が成果を上げています。

■ 顧客(地域・地球)の法順守と環境貢献活動及び負荷低減

当社に関連する全ての顧客の環境負荷低減に貢献できることを目標に活動に取り組んでおり、2016年の6月から施行となる改正労働安全衛生法のリスクアセスメント及び地元四日市市の環境条例で制定された臭気指数濃度規制についての法改正動向のセミナーを実施し107団体、157名の参加をいただきました。

またISO9001及び14001の規格改正が2015年11月に発行されたことに伴う情報の発信としてニュースレターやホームページで実施するとともに、当社が主催する内部監査員養成セミナーのテキスト改訂を進めています。

恒例として取り組んでいる地域開催イベント「Mieこどもエコフェア」へ今年も出展。毎年好評なプラコップでのオリジナルキーホルダーを作成し楽しんでもらいました。

また今年の地域清掃活動は4月と11月に実施各サイトの拠点を中心に地域のゴミ拾い、草刈り、側溝清掃などに取り組みました。

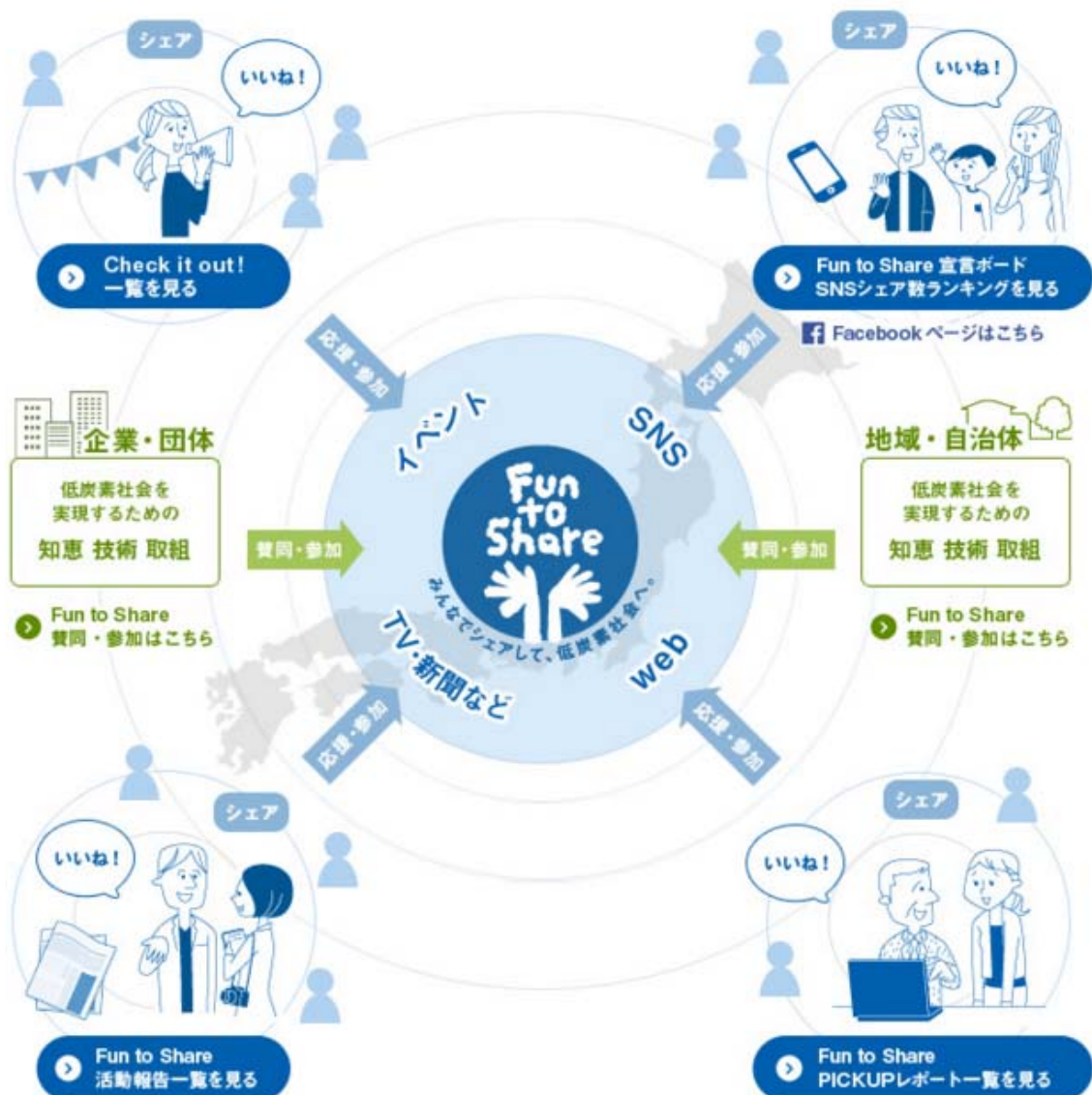


■ 環境負荷低減設備の販売に基づく二酸化炭素削減への貢献

地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金を活用し、ボイラ2缶の更新受注を獲得しました
燃料も重油から電気に転換することにより燃焼効率で87%の向上 CO2削減量として年間267トンの効果が見込める
貢献となりました。設備販売の目標は受注が難しい部分もありますが、地域全体の環境貢献のためにも今後も積極的に活動していきたいと考えています。

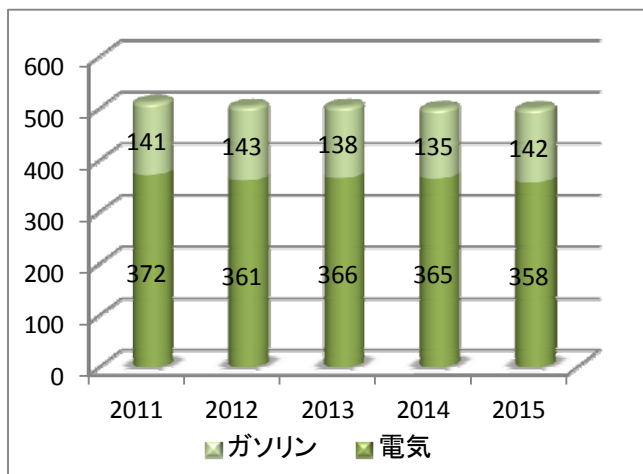
■ 社員全員を巻き込んだEMSの進化

ペットボトルキャップの回収活動は今年も全社で取り組みを継続し4700個の目標値に対して6867個と大きく目標を上
回ることが出来ました。NPO法人エコキャップ推進協会の活動も再開されており三重県では松阪市の中島化成工業
所が受入を行っているため持ち込みを進めます。
使用済み乾電池をそのまま廃棄すると電池どうしが接触し、液漏れを起こしやすくなるため、廃棄する際はプラス極
マイナス極それぞれをテープで絶縁してから廃棄する活動を全社を挙げて実施しました。
環境省が新たに気候変動キャンペーンとしてスタートした、最新の知恵をみんなでシェアしながら低炭素社会をつくつ
ていこうという合い言葉「Fun to Share」の取組に賛同宣言を実施しました。目標に向かってガマンして必死に頑張る
のではなく毎日楽しく暮らしながら炭素の低減に貢献したいと思います。
またエコ検定チャレンジでは松阪分析センターで1名の合格者を出すことが出来ました。

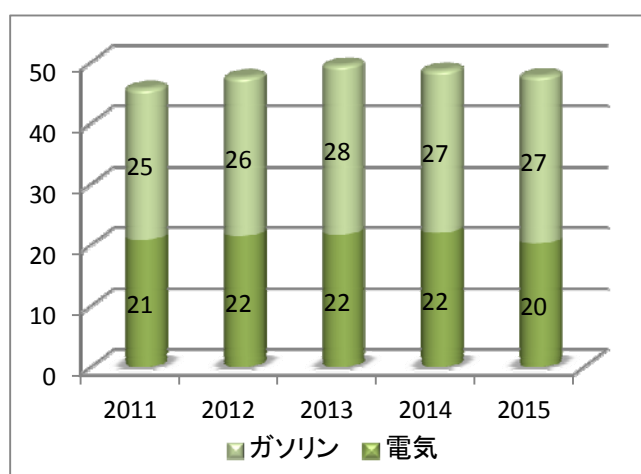


二酸化炭素排出量の推移 (t/年)

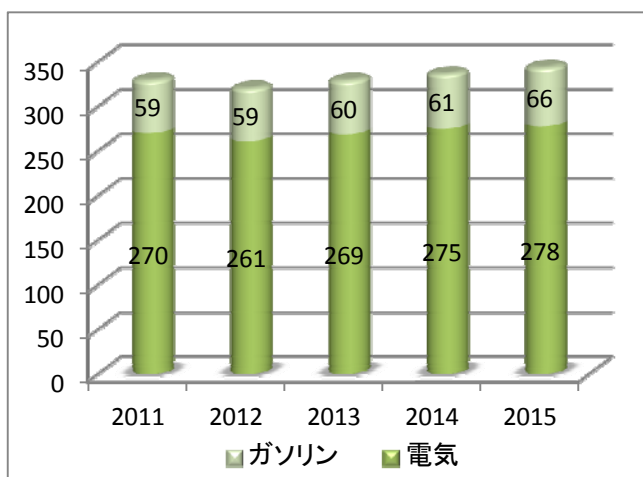
全 社



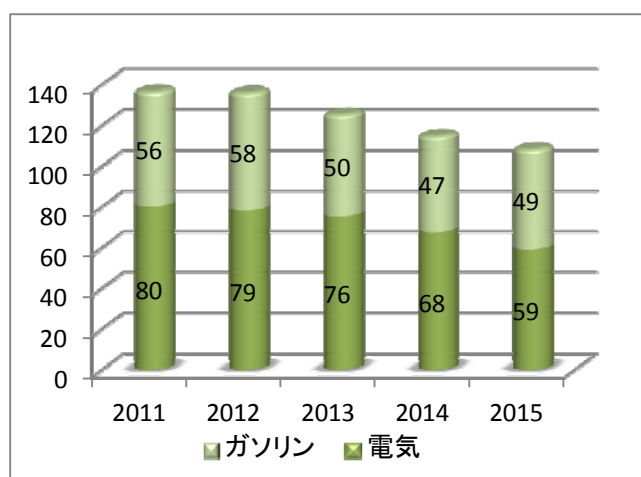
本 社



四日市分析センター

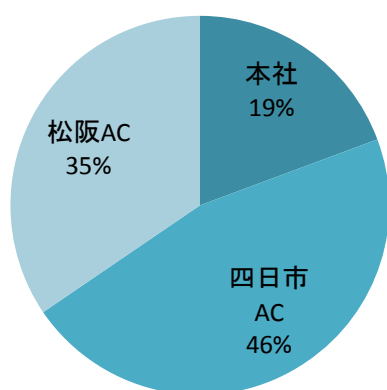


松阪分析センター

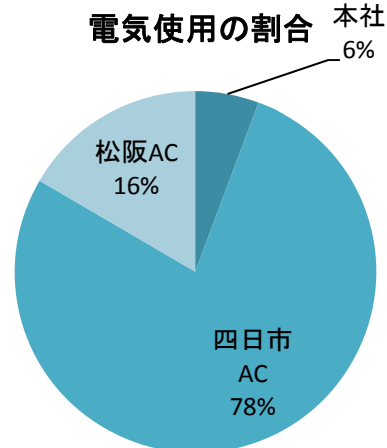


サイト間の使用割合

ガソリン使用の割合



電気使用の割合

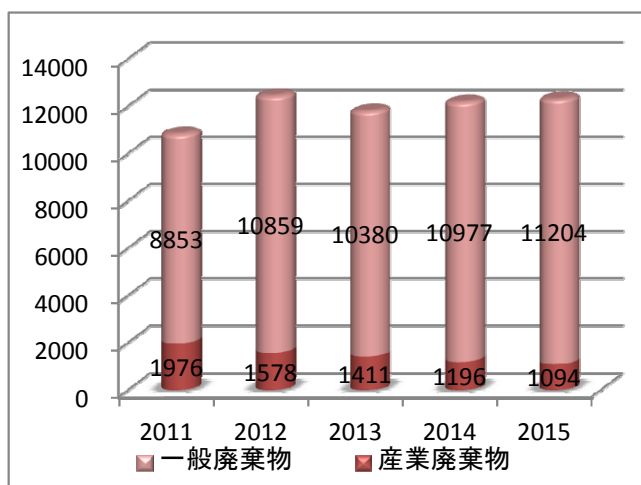


電力消費量は四日市ACで前年に比べ微増となったものの、全社では1.9%減となり2013年の水準に戻すことが出来た。これには純水製造装置導入の効果が顕著に出ている松阪ACでの13.2%の大幅な削減量が寄与しているが、電気使用量が全体の78%をしめる四日市ACでの削減対策が今後の課題になっています。

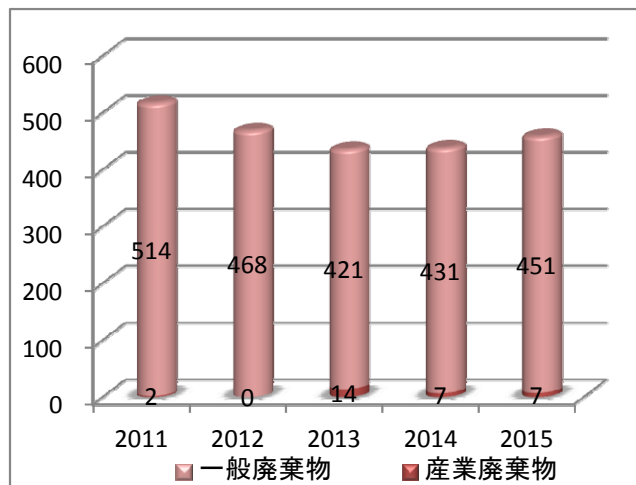
ガソリン使用量は四日市ACで増加はみられたものの概ね横ばいの状況が続いています。

廃棄物排出量の推移 (kg/年)

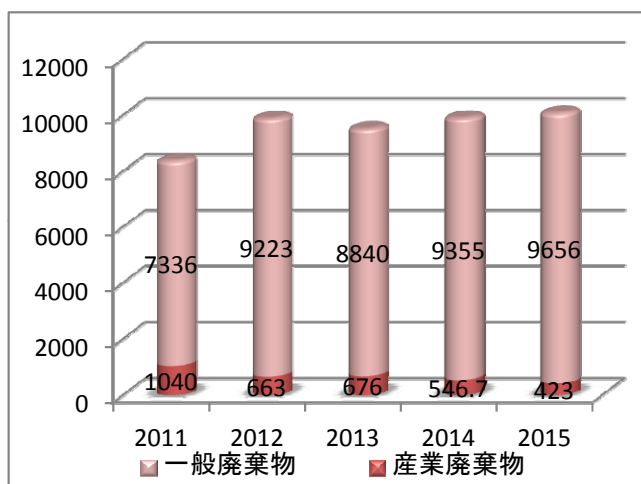
全社



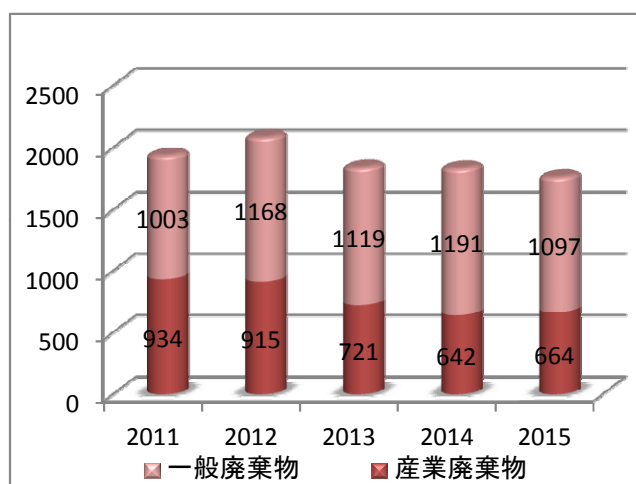
本社



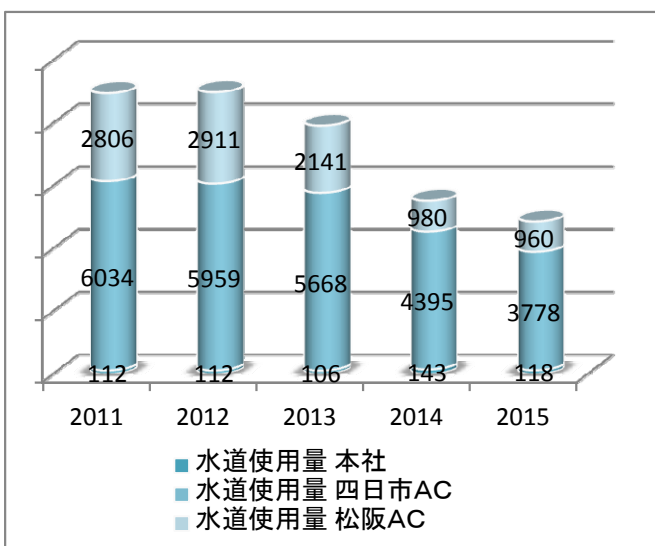
四日市分析センター



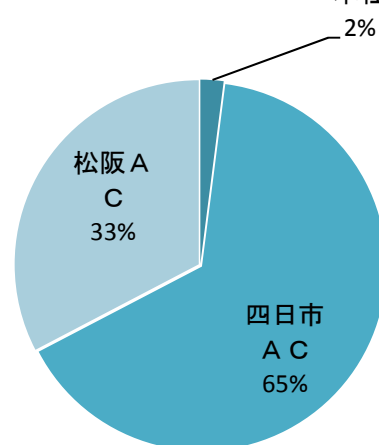
松阪分析センター



水道使用量の推移 (m3/年)



水道使用量比率 本社



純水製造装置導入による蒸留式の純水製造装置を廃止したことによる冷却水のゼロ化が大きく貢献しており、四日市ACで導入前比33%のダウン、松阪ACで同55%のダウンとなっており、水道使用量が半分以下になるという驚異的な効果となっています。また節水に節減経費も上下水道をあわせ169万と大きな成果を得られています。

環境法令の順守は、事業活動の基盤となる認識のもと、日常業務における化学物質や廃棄物の適正な管理に取り組んでいます。さらに、環境汚染の防止や騒音・振動など地域環境への配慮にも取り組んでいます。

当社の業務に係る環境関連法

- 悪臭防止法
 - ・四日市及び松阪分析センターの敷地境界線測定において、規制基準を満たしています。
- 水質汚濁防止法
 - ・四日市及び松阪分析センターの構造等に関する基準における定期点検の結果、異常はありませんでした。
- 下水道法
 - ・四日市及び松阪分析センターの放流水の水質検査において、規制基準を満たしています。
- 廃棄物処理法
 - ・事業活動における産業廃棄物はマニフェスト管理の徹底や、飛散防止措置など保管基準を満たしています。
- 毒物及び劇物取締法
 - ・保管基準に従い毒物劇物取扱責任者により厳重に管理され、適切に保管場所の明示がされています。
- 放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律(四日市分析センターのみ)
 - ・放射線障害予防規程を遵守し、対象の放射線であるECD検出器(Ni63)の機器表面で測定し、放射線源の最大線量当量率が0.6 μ Sv/h以下であることを確認しています。
- PRTR法(四日市分析センターのみ)
 - ・化管法対象事業者として、第一種指定化学物質(トルエン)の排出量・移動量の届出書を提出しています。
- 改正省エネ法(住宅・建築物に係る措置)
 - ・四日市分析センターの厚生棟が中小規模の第二種特定建築物として届出を行っています。省エネ措置の維持保全状況を3年に1回所管行政庁に定期報告を行っています。
- 三重県生活環境の保全に関する条例(土壌及び地下水汚染に関する規則)
 - ・四日市及び松阪分析センターの有害物質使用特定施設における調査等(第72条の3)に基づく地下水調査において、規制基準を満たしています。
- フロン排出抑制法(改正フロン類法)
 - ・四日市及び松阪分析センターに設置されている第一種特定製品(エアコン等)に関して、定期点検を行う事で適切な維持管理を行っています。

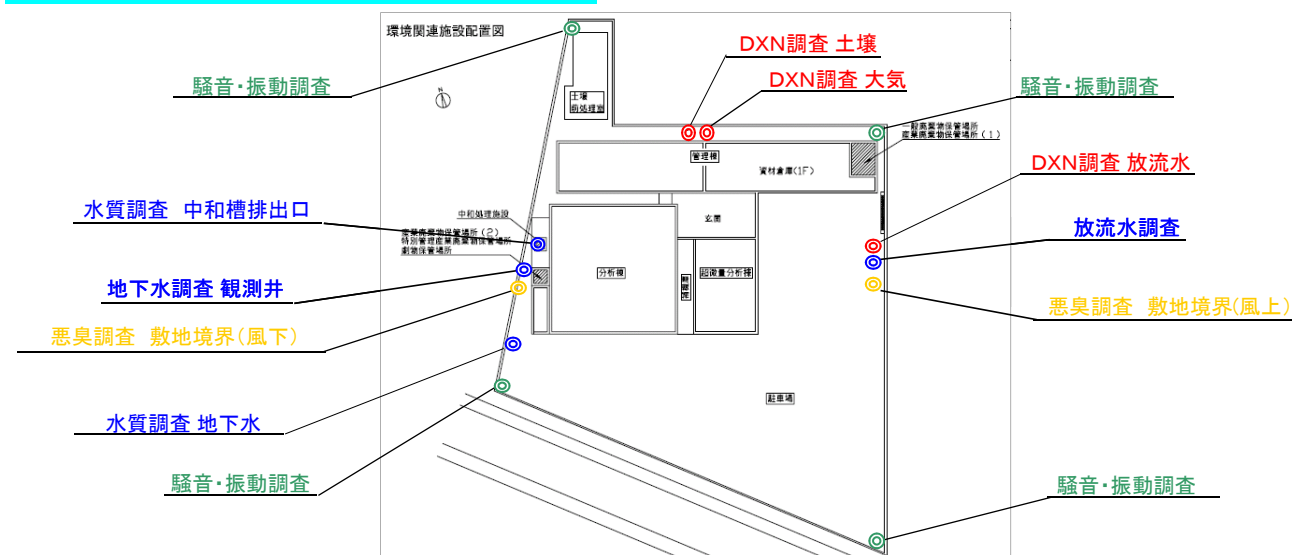
法規制には直接該当しないが、環境側面に適用される法規制

- 騒音規制法
 - ・四日市及び松阪分析センターの敷地境界線測定において、自主基準を満たしています。
- 振動規制法
 - ・四日市及び松阪分析センターの敷地境界線測定において、自主基準を満たしています。
- その他環境関連法
 - ・グリーン購入法に準拠し環境に配慮したものの選択や、家電リサイクル法に伴う対象家電の適切な処分遂行など環境関連法の順守に努めています。

四日市分析センターには、以下の環境関連法について法律の遵守が求められています。

1. 悪臭防止法
2. 水質汚濁防止法
3. 下水道法
4. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
5. 毒物及び劇物取締法
6. 放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律
7. PRTR法
8. 改正省エネ法(住宅・建築物に係る措置)
9. 三重県生活環境の保全に関する条例(土壌及び地下水汚染に関する規則)
10. フロン排出抑制法(改正フロン類法)

■ 四日市分析センター 周辺環境影響調査位置図



1. 悪臭防止法

事業活動による周辺地域への大気汚染防止対策として、悪臭防止法に定められている22物質について年1回敷地境界にて調査を実施し、法規制の基準値を順守していることを確認しています。

測定項目	測定値		自主基準	測定項目	測定値		自主基準
	風上	風下			風上	風下	
アンモニア	<0.1	<0.1	0.5	イソバレルアルデヒド*	<0.0003	<0.0003	0.003
メチルメルカプタン	<0.0002	<0.0002	0.002	イソブタノール	<0.09	<0.09	0.45
硫化水素	<0.002	<0.002	0.02	酢酸エチル	<0.3	<0.3	1.5
硫化メチル	<0.001	<0.001	0.01	メチルイソブチルケトン	<0.1	<0.1	0.5
二硫化メチル	<0.0009	<0.0009	0.009	トルエン	<1	<1	5
トリメチルアミン	<0.0005	<0.0005	0.0025	スチレン	<0.04	<0.04	0.2
アセトアルデヒド*	0.005	<0.005	0.025	キシレン	<0.1	<0.1	0.5
プロピオンアルデヒド*	<0.0005	<0.0005	0.025	プロピオン酸	<0.0003	<0.0003	0.015
ノルマルブチルアルデヒド*	<0.0009	<0.0009	0.0045	ノルマル酪酸	<0.0001	<0.0001	0.0005
イソブチルアルデヒド*	<0.002	<0.002	0.01	ノルマル吉草酸	<0.00009	<0.00009	0.00045
ノルマルバレルアルデヒド*	<0.0009	<0.0009	0.0045	イソ吉草酸	<0.0001	<0.0001	0.0005

単位: ppm

2. 水質汚濁防止法

水質汚濁防止法に基づき、洗浄施設として流し台、ドラフトチャンバー等を届け出しています。
四日市分析センターの構造等に関する基準における定期点検の結果、異常はありませんでした。



【流し台】

3. 下水道法

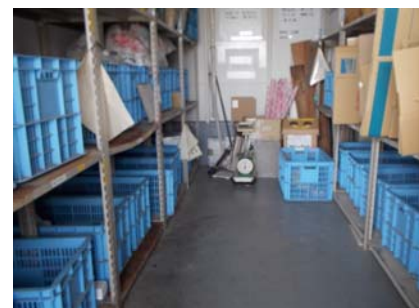
放流水について健康項目及び生活環境項目等に関して年1回調査を実施し、全ての調査項目において自主基準値をクリアしている事が確認できました。また、放流水調査ではpH、BOD等特定の項目を毎月測定し、全ての調査項目において自主基準値をクリアしている事が確認できました。

4. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

廃掃法に基づき、事業活動により排出された廃棄物について、適切に分類、保管を実施しています。
また、処分については廃棄物処理専業者
に委託し、マニフェストによる適正な管理、
処理を行い、法律を順守しています。



【特別管理産業廃棄物保管庫】



【廃棄物保管状況】

5. 毒物及び劇物取締法

事業活動において使用する毒物及び劇物について、保管場所を決め、適切に表示しています。
また、毒物及び劇物の使用に関しては管理台帳
によって管理し、法律を順守しています。



【薬品庫】



【劇物表示】

6. 放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律

放射線障害予防規程を遵守し、対象の放射線であるECD検出器(Ni63)の機器表面で測定し、放射線源の最大線量当量率が0.6 μ Sv/h以下であることを確認しています。

測定月	放射線量等量率
3月	0.042
9月	0.035

単位: μ sv/h

7. PRTR法

化管法対象事業者(業種コード:8630)として、トルエンの排出量・移動量の届出書を提出しました。

8.改正省エネ法(住宅・建築物に係る措置)

四日市分析センターの厚生棟が中小規模の第二種特定建築物として届出を行っています。

9. 三重県生活環境の保全に関する条例(土壌及び地下水汚染に関する規則)

四日市分析センターの有害物質使用特定施設における
調査等(第72条の3)に基づく地下水調査において、
規制基準を満たしていました。



【地下水観測井】

10. フロン排出抑制法(改正フロン類法)

四日市び松阪分析センターに設置されている第一種特定製品(エアコン等)に関して、
定期点検を行う事で適切な維持管理を行っています。

11. 周辺環境影響調査

四日市分析センターでは他にも事業活動による周辺環境への影響調査として、
騒音、振動、ダイオキシン類及び水質の調査も実施しています。

12-1. 騒音・振動調査

敷地境界における騒音・振動調査を年1回実施しました。騒音・振動ともに自主基準値をクリアしている事が確認できました。

騒音振動測定結果

地点	測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
①	騒音レベル(L ₅)	59 dB(A)	70 dB(A)	振動レベル(L ₁₀)	40 dB	70 dB
②		61 dB(A)			37 dB	
③		67 dB(A)			38 dB	
④		53 dB(A)			39 dB	

12-2. ダイオキシン類調査

環境大気、土壌及び放流水におけるダイオキシン
類調査を年1回実施しました。各媒体ともに、自主
基準値をクリアしている事が確認できました。

媒体	測定値	自主基準値
環境大気	0.016 pg-TEQ/m ³	0.2 pg-TEQ/m ³
土壌	4.4 pg-TEQ/g-dry	25 pg-TEQ/g-dry
放流水	0.069 pg-TEQ/L	5 pg-TEQ/L



【ダイオキシン類分析状況】

10-3. 水質調査

排水処理設備の中和槽排出口等の水質
について健康項目及び生活環境項目等に関して
調査を実施し、全ての調査項目において自主
基準値をクリアしている事が確認できました。



【排水処理設備】

松阪分析センターにおいては、各環境関連法について次のような活動をして法令を順守しております。

1. 悪臭防止法関連(敷地境界における悪臭物質測定)

松阪分析センターでは、事業活動による周辺地域への大気汚染防止の確認の為、悪臭防止法に定められている22物質について、敷地境界で年1回測定し、法規制の基準値をクリアしていることを確認しています。

悪臭物質測定結果

測定項目	測定値		自主基準	測定項目	測定値		自主基準
	風上	風下			風上	風下	
アンモニア	<0.1	0.1	0.5	イソバレルアルデヒド	<0.0003	<0.0003	0.0015
メチルメルカプタン	<0.0002	<0.0002	0.001	イソブタノール	<0.09	<0.09	0.45
硫化水素	<0.002	<0.002	0.01	酢酸エチル	<0.3	<0.3	1.5
硫化メチル	<0.001	<0.001	0.005	メチルイソブチルケトン	<0.1	<0.1	0.5
二硫化メチル	<0.0009	<0.0009	0.0045	トルエン	<1	<1	5
トリメチルアミン	<0.0005	<0.0005	0.0025	スチレン	<0.04	<0.04	0.2
アセトアルデヒド	<0.005	0.005	0.025	キシレン	<0.1	<0.1	0.5
プロピオンアルデヒド	<0.005	<0.005	0.025	プロピオン酸	<0.003	<0.003	0.015
ノルマルブチルアルデヒド	<0.0009	<0.0009	0.0045	ノルマル酪酸	<0.0001	<0.0001	0.0005
イソブチルアルデヒド	<0.002	<0.002	0.01	ノルマル吉草酸	<0.00009	<0.00009	0.00045
ノルマルバレルアルデヒド	<0.0009	<0.0009	0.0045	イソ吉草酸	<0.0001	<0.0001	0.0005

単位: ppm

2. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃液の漏洩防止対策)

松阪分析センターでは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、事業活動により排出された廃棄物について、適切に分類・保管を行っております。

また、万が一の廃液の漏洩に備え、定期的に廃液漏洩を想定した漏洩防止訓練を行っており、周辺環境への漏洩防止を徹底しております。



特別管理産業廃棄物保管場所			
廃棄物の種類	廃油 汚泥		廃酸 廃アルカリ
	数	量	
	(種類及び区分の別の保管の場合)	200L	

3. 毒物及び劇物取締り法(毒物及び劇物の管理)

松阪分析センターでは、事業活動において使用する毒物及び劇物の保管について徹底して管理しております。

毒物及び劇物の使用に関しては、使用の都度、毒劇物管理台帳に記入しており、保管庫の鍵には破損がないかなど、徹底的にチェックしております。



4. フロン排出抑制法

平成27年4月から施行された改正フロン法に基づき、対象となる機器台帳及び点検記録表を作成しました。

異常音や腐食などの劣化等がないか、毎月1回定期的に点検を実施しております。



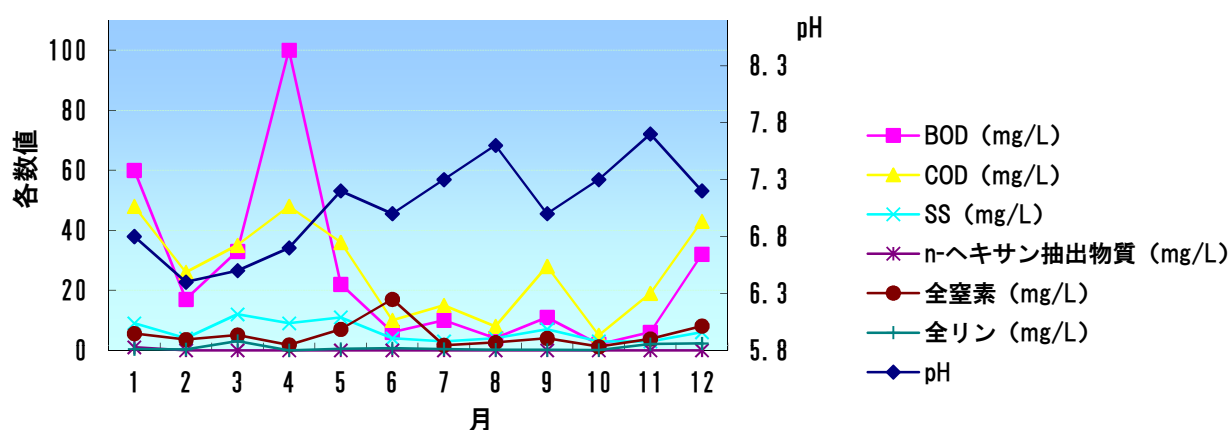
■ 周辺環境影響調査

松阪分析センターでは、悪臭調査の他にも、事業活動による周辺環境への影響調査として、放流水、地下水、騒音、振動についての調査も定期的の実施しております。

1. 放流水調査

松阪分析センターから排出される放流水については、pH値、BOD、COD、SS、n-ヘキサン抽出物質、全窒素、全リンの7項目を毎月測定しています。また、重金属、VOCなど40項目を年2回測定しております。その結果、全ての項目において法規制の基準をクリアしていました。

2015年 環境測定結果推移（松阪分析センター）



放流水水質結果

測定項目	測定値		自主基準	測定項目	測定値		自主基準
	5月	11月			5月	11月	
フェノール類	<0.1	<0.1	1	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	0.04
銅	0.39	<0.02	1	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	0.2
亜鉛	0.025	0.03	2	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	0.4
溶解性マンガン	<0.02	0.03	10	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	3
溶解性鉄	0.85	0.68	10	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	0.02
全クロム	<0.04	<0.04	2	シマジン	<0.0003	<0.0003	0.03
有機リン	<0.1	<0.1	1	チウラム	<0.0006	<0.0006	0.06
フッ素	<0.1	0.1	15	チオベンカルブ	<0.002	<0.002	0.2
カドミウム	<0.001	<0.001	0.1	セレン	<0.002	<0.002	0.1
シアン	<0.1	<0.1	1	ベンゼン	<0.001	<0.001	0.1
鉛	<0.001	<0.01	0.1	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	0.06
六価クロム	<0.04	<0.04	0.5	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.0006	<0.0006	10
ヒ素	<0.005	<0.005	0.1	1,4-ジオキサン	<0.05	<0.05	0.5
全水銀	<0.0005	<0.0005	0.005	メチルメルカプタン	0.0096	<0.0005	0.016
アルキル水銀	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	硫化水素	<0.0002	<0.0002	0.056
ポリ塩化ビフェニル	<0.0005	<0.0005	0.003	硫化メチル	<0.0002	<0.0002	0.16
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	0.3	二硫化メチル	<0.01	<0.01	0.283
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	0.1	アンモニア・アンモニウム化合物、 亜硝酸化合物及び硝酸化合物	<0.1	0.5	100
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	0.2	塩化ビニルモノマー	<0.0002	<0.0002	0.002
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	0.02	ホウ素	1.3	0.07	10

単位: mg/L

■周辺環境影響調査

2. 地下水調査

松阪分析センター敷地内における地下水においては、重金属、VOCなど28項目を、年1回測定しました。その結果、全ての項目において法規制の基準をクリアしており、事業活動による地下水汚染は確認されませんでした。

地下水水質結果

測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
カドミウム	<0.0003	0.01	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.02
シアン	<0.1	検出されないこと	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04
有機リン	<0.1	検出されないこと	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	1
鉛	0.001	0.01	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006
六価クロム	<0.001	0.05	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002
ヒ素	<0.001	0.01	チウラム	<0.0006	0.006
全水銀	<0.0005	0.0005	シマジン	<0.0003	0.003
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと	チオベンカルブ	<0.002	0.02
PCB	<0.0005	検出されないこと	ベンゼン	<0.001	0.01
トリクロロエチレン	<0.002	0.03	セレン	<0.001	0.01
テトラクロロエチレン	<0.0005	0.01	フッ素	0.23	0.8
ジクロロメタン	<0.002	0.02	ホウ素	0.05	1
四塩化炭素	<0.0002	0.002	1,4-ジオキサン	<0.005	0.05
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004	塩ビモノマー	<0.0002	0.002

単位:mg/L



■周辺環境影響調査

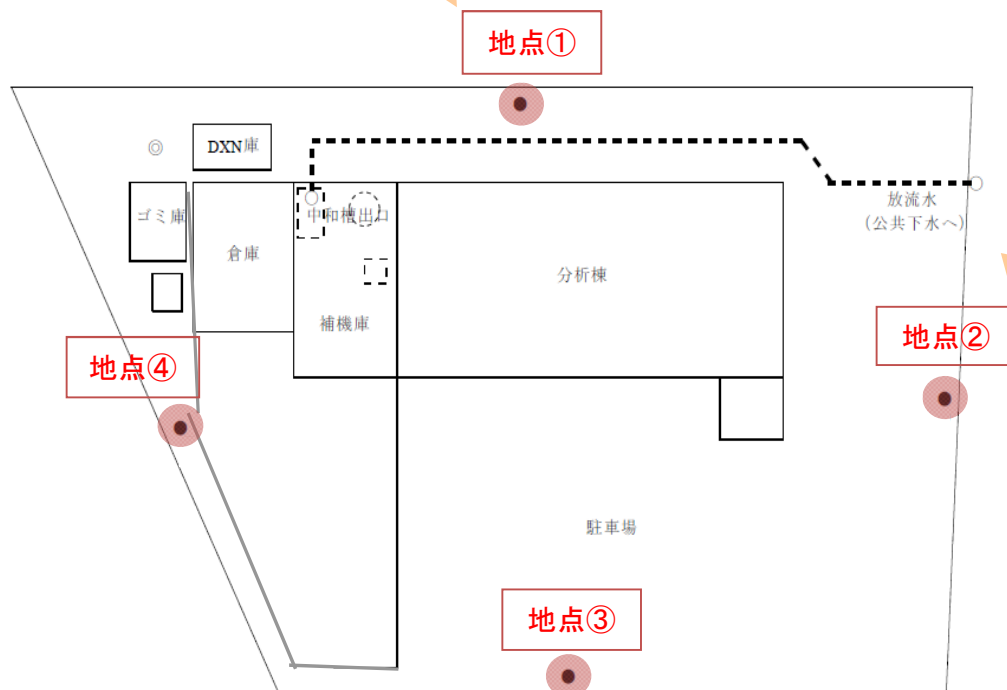
3. 騒音振動調査

松阪分析センター敷地境界における騒音、振動について年1回測定しました。

その結果、全ての項目において法規制の基準をクリアしておりました。

騒音振動測定結果

地点	測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
①	騒音レベル(L ₅)	47 dB(A)	70 dB(A)	振動レベル(L ₁₀)	< 30 dB	70 dB
②		47 dB(A)			< 30 dB	
③		47 dB(A)			< 30 dB	
④		48 dB(A)			32 dB	



■ 嗅覚試験の電子処理システム (LABEIS-OE) 導入による資源削減

従来の嗅覚試験では判定用の用紙を6人のパネラーに配布し判定結果を集計し測定結果を計算していた。

測定担当者は判定用紙の準備や結果の集計に時間を要していた為紙の使用量削減、担当者の作業工数削減を目的としてタブレットPCを利用した嗅覚試験システムの自社開発を行うこととなった。

自社でプログラムした嗅覚試験の電子処理システム (LABEIS-OE) は各パネラーが判定結果をタブレットPCにタッチすればたちまち卓上PCとクラウド上でリンクし即座に試験結果が算定されることとなる。

導入効果は従来に比べ月あたりの紙使用量は約370枚、作業工数は約25時間の資源削減効果が得られた。



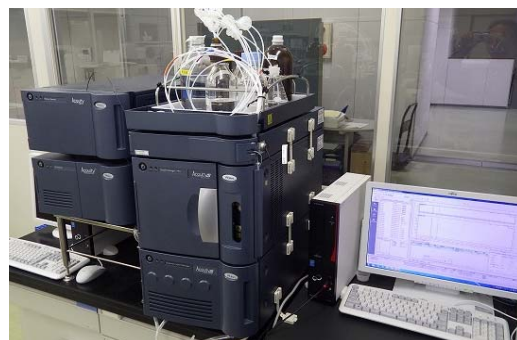
LABEIS-OE (タブレットPC) の使用状況

■ 新型高速液体クロマトグラフ (UPLC) の導入による資源削減

従来の高速液体クロマトグラフ (HPLC) に比べ新型の超高速液体クロマトグラフ (UPLC) は高い圧力と低拡散で移動相を送液することが出来る分析装置である。

このUPLCを導入した結果、分析時間はアルデヒド分析において1検体あたり20分から5分と1/4に短縮されることとなった。

装置稼働時間の短縮は電力消費量及び使用溶媒量の節約に繋がる。アルデヒド分析だけで月あたりの電力消費量は約2kwh、使用溶媒量は約200mLの資源削減効果が得られた。



Waters社製 超高速液体クロマトグラフ
ACQUITY UPLC H-Class

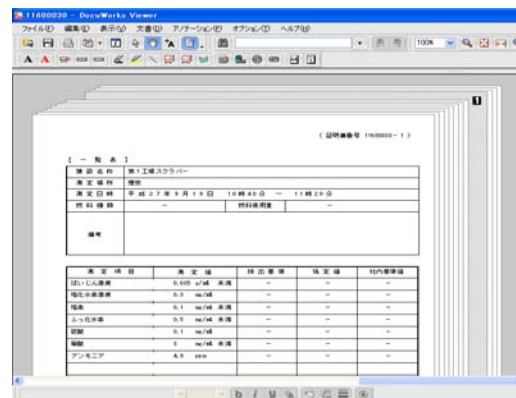
■ 報告書の電子保存による効率化

報告書の保存方法は紙媒体の報告書を人がファイルに閉じキャビネットに保管する手法であった。

この保存方法を電子することにより、紙資源の削減、面倒なファイリング作業からの開放、検索スピードの高速化などが期待できる。

当社の報告書基幹データ処理システムにDocuWorksシステムを融合させ報告書の自動電子保管、検索、閲覧の利便性を向上させるべくシステムを構築した。

報告書の原本は従来どおり紙媒体での保管も行うが異なる拠点でも報告書の閲覧が可能になり報告書を探す手間や営業が電子データで確認できるなど効率化向上につながっている。



DocuWorksで電子化された報告書

■ 電池類の廃棄方法の見直し実施

今年度から電池類の廃棄方法の見直しを実施しました。

具体的には、電池の電極をセロテープやビニールテープで絶縁し専用の回収BOXに廃棄する事としました。

電池の電極を絶縁しないまま回収BOXへ入れると、電池の筐体などを通してショートする事があり、ショート時に大きな電流が流れて発熱や発火、液もれなどを起こす事があります。

それを防止するために、回収BOXに電池の廃棄方法を掲示し適正な廃棄が出来るようにしています。



回収された電池類は専門の処理業者にてリサイクルを実施しています。リサイクル工場ではリサイクル対象電池を選別しロータリーキルンで焙焼する事で水銀を蒸気として分別し回収しています。焙焼後の残渣はさらに解砕・磁気選別を経て鉄くずや亜鉛・マンガンの酸化物等に分別され、それぞれリサイクルされます。



出典：野村興産株式会社 HP

■ペットボトルキャップ回収活動の実施

今年度も引き続きペットボトルキャップの回収活動を実施しました。

この活動もすっかり定着し、目標として掲げた2000個を大幅に上回り、最終的に2975個の回収となりました。

これらのペットボトルキャップは寄付団体へ送られ、ワクチン提供活動などの支援が行われるとともに、廃棄物削減やEMS活動推進意識の向上に寄与しています。



■EMS活動のモチベーション向上

2013年から開始した「Edible office yard(食べられる会社の庭)」企画は3年目を迎えました。今年度は 玉ねぎ・トマト・ししとう・なす・パプリカ・枝豆・メロン・ヤングコーン・アスパラなどを栽培しました。カボチャやゴーヤは大雨の影響で不作でしたが、トマトやメロン、ししとうは順調に育ち美味しくいただくことができました。新たな取組みとして雑草や収穫後の苗を堆肥化すべく区画の一つを堆肥区画として堆肥枠を設けました。これで日々の手入れにも張り合いができました。

今年は屋上菜園メンバーも新たに増え、また収穫物を味わう鍋パーティなどの参加者も着実に増えています。これらの活動を通じて、来年度も引き続きEMS活動全般の推進意識向上に向け活動を継続します。



2015年における松阪分析センターとしての環境負荷への取り組みとして次のような活動を行いました。

□ エアコン設備改善による二酸化酸素排出量の削減の検討

□ 消耗品見直しによる廃棄物削減量の削減

□ 「私の環境活動」による、エネルギー使用量の削減

□ 「私の環境活動」による、廃棄物排出量の削減

これらの活動の結果、産業廃棄物量については前年比で約3%増加したものの、一般廃棄物量については前年比で約8%削減、電力使用量、水道使用量については、それぞれ前年比で、約12%、約2%削減することができました。

また、全社員のEMS活動への参加の推進として次のような取り組みを行いました。

□ ペットボトルキャップ回収の推進

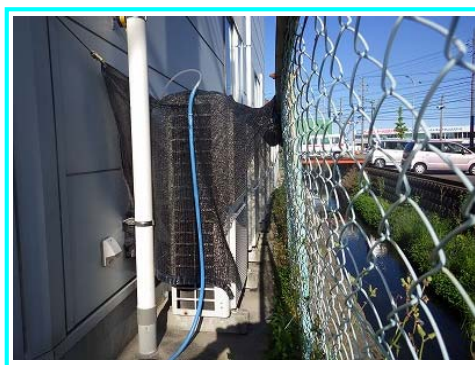
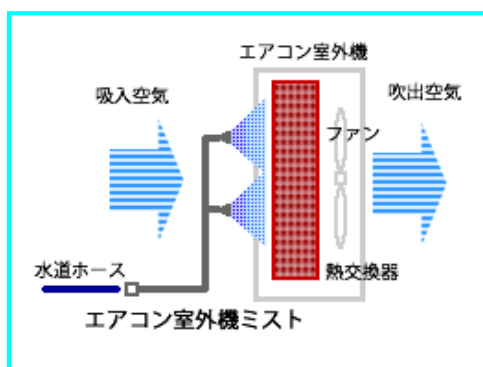
□ 使用済み乾電池回収の推進

□ eco検定受験の推進

エアコン設備改善による二酸化酸素排出量の削減の検討

エアコンの稼働による電力消費が大きいということで、今まで幾つか対策を実施してきましたが、他にエアコン設備を改善することにより電力の消費を削減できないか検討しました。

その結果、室外機を散水により冷却する方法が消費電力の削減に繋がるということで、室外機のみスト冷却システムを2016年から取り入れることにしました。



消耗品見直しによる廃棄物削減量の削減

業務で使用している消耗品の使用を見直して、産業廃棄物の排出量を削減しました。

(1) 四日市ー松阪間での試料受け渡し専用ケースの運用

これまで四日市と松阪間で試料をやり取りする時は、試料を箱詰めし、クッション材を詰めて梱包をしており、その都度クッション材等の廃棄物が発生しておりました。そこで、専用のケースを用意し、それを再利用して使用することにより、箱とクッション材の廃棄を無くすることができました。

(2) 充電電池の運用

測定機器に使用する乾電池について、使用頻度の高いものについては、使い捨て式から充電式に変更し、乾電池の廃棄量を削減しました。



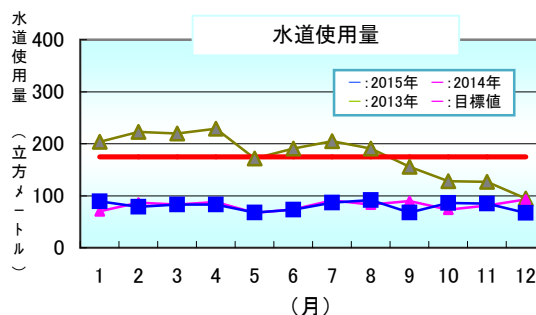
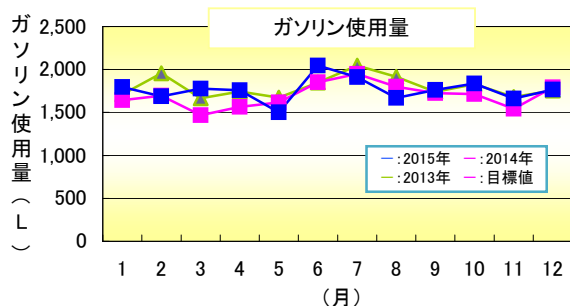
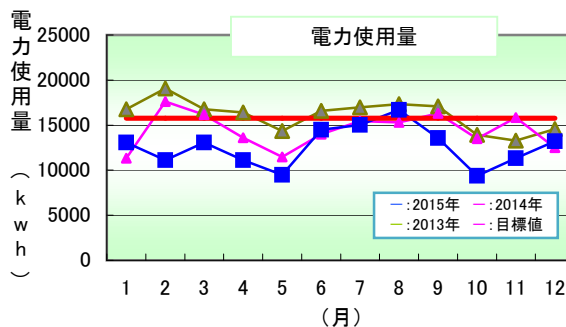
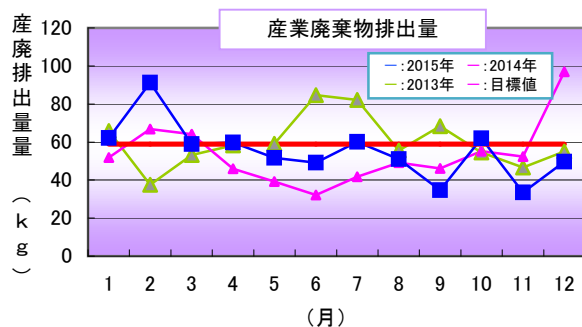
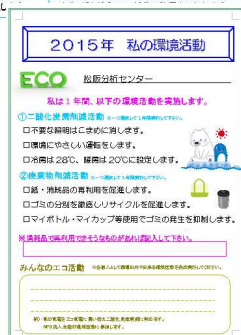
「私の環境活動」による、エネルギー使用量の削減、廃棄物排出量の削減

昨年に引き続き「私の環境活動」としては、二酸化炭素と廃棄物削減活動について各個人が取り決め、一年間を通して実行しました。その中では、アイドリングストップ等環境にやさしい運転、不要な照明の消灯による二酸化炭素削減活動の他、ゴミの分別の徹底、紙、消耗品の再利用の推進、マイボトル、マイカップ使用による廃棄物削減活動を行いました。

また、各個人として職場以外で出来る環境活動についても、畜産業における温暖化ガス排出量削減の為、野菜中心の食生活にすることや、家に太陽光発電を設置、エアコンの使用を控えたりと、年々各個人の環境に対する意識が向上しています。引き続き、「私の環境活動」は継続したいと思います。

～2015年 私の環境活動～

名前	二酸化炭素削減活動	廃棄物削減活動	みんなのエコ活動
堤 慎一郎	不要な照明はこまめに消します。	ゴミの分別を徹底しリサイクルを促進します。	春休みを食べるのを機に野菜中心の食生活にする。 (家庭菜園における温暖化ガスの排出量を削減するため)
森本 智恵	環境にやさしい運転をします。	紙・消耗品の再利用を促進します。	温水器の設定を低めに設定して灯油の使用量を減らします。
赤坂 直樹	環境にやさしい運転をします。	紙・消耗品の再利用を促進します。	エアコンの温度を下げてリモコン・クーラーを使用し車に乗り換えます。
松岡 正敏	不要な照明はこまめに消します。	紙・消耗品の再利用を促進します。	車の不要な燃費は減らし、二酸化炭素削減に努めます。可能な限り、車の使用を控え自転車を使用し、二酸化炭素削減に努めます。
藤原 靖樹	環境にやさしい運転をします。	マイボトル・マイカップ等使用でゴミの発生を抑制します。	アイドリングストップを心掛けています。
加藤 隆幸	環境にやさしい運転をします。	紙・消耗品の再利用を促進します。	家庭用等最大限活用し冷蔵庫の使用を機力減らします。
野川 卓也	環境にやさしい運転をします。	ゴミの分別を徹底しリサイクルを促進します。	家のエアコンの使用を機力減らし二酸化炭素削減に努めます。
結尾 明彦	環境にやさしい運転をします。	マイボトル・マイカップ等使用でゴミの発生を抑制します。	家に太陽光発電を設置し、二酸化炭素削減に努めます。
庄野 真由美	不要な照明はこまめに消します。	紙・消耗品の再利用を促進します。	ゴミの分別をし、リサイクルを促進します。
増井 直由佳	不要な照明はこまめに消します。	ゴミの分別を徹底しリサイクルを促進します。	家での食料を消費期限を過ぎて捨てるのではなく、無駄なく使い切るように努めます。
永島 寛士	環境にやさしい運転をします。	マイボトル・マイカップ等使用でゴミの発生を抑制します。	暑い日は涼しいにもたず断熱をする。そうすることでクーラーはあまり使わずに、体感を下げることができます。
甲斐 聖実	環境にやさしい運転をします。	ゴミの分別を徹底しリサイクルを促進します。	



ペットボトルキャップ回収の推進(エコキャップ運動)

昨年に引き続き、ペットボトルキャップの回収(エコキャップ運動)を行いました。本年は2732個のキャップを集めることができ、目標の1700個を達成することが出来ました。

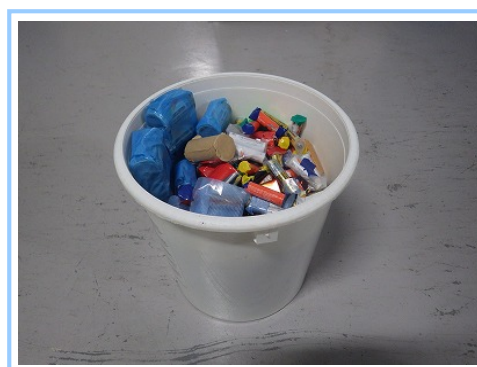
キャップ1kg当たり二酸化炭素を3kg削減できることや、再資源化されることにより廃棄物削減量を削減できることから、今後も継続してエコキャップ運動に参加していきたいと思います。



使用済み乾電池回収の推進

使用済みの乾電池の廃棄に関しては、そのままの状態では廃棄すると電池どうしが接触し、液漏れを起こし、環境汚染に繋がる危険性があります。

そこで、使用済みの乾電池を廃棄する際は、+極、-極にテープで絶縁してから廃棄することにより、破棄された乾電池からの液漏れを防いでいます。

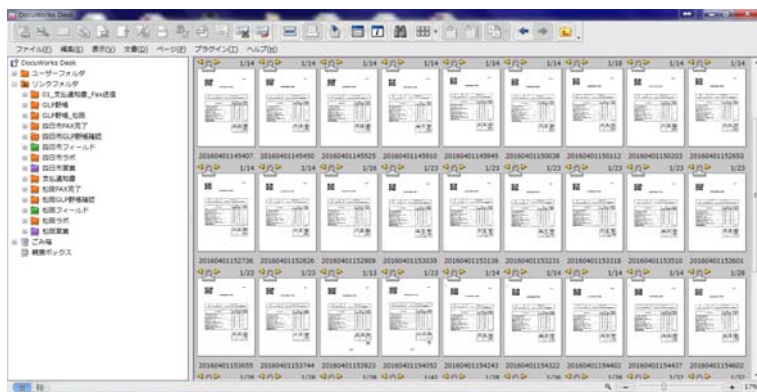


eco検定受験の推進

松阪分析センターにおいて、eco検定受験の推進活動を行いました。本年は、合格者が1名誕生しました。今後はエコピープルとして複雑、多様化する環境問題について取り組みたいと思います。



■ 報告書付随書類の電子ファイル化による業務効率化



水道GLPに関する水質検査報告書では顧客に求められた場合に、その結果をトレースできるように分析野帳がいつでも提出できる必要があります。

分析野帳をファイル用にコピーを取っていた為、相当量の紙資源と作業量を電子ファイル化し作業負担の軽減と紙資源の削減に取り組みました。

従来イメージ

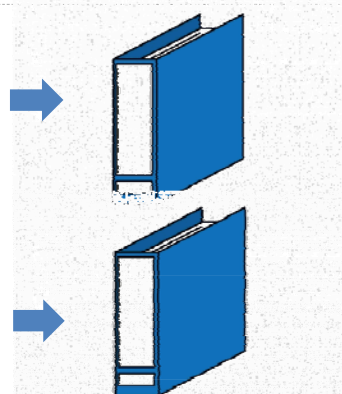


1. Excelから紙に出



2. 紙に手書きで記

3. 顧客の数だけコピ



4. 顧客毎にファイリ

改善イメージ



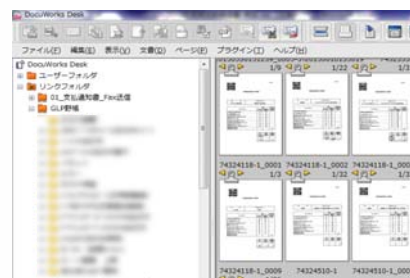
1. Excelから紙に出力



2. 紙に手書きで記録



3. Docuworks形式でファイルをスキャン



4. 顧客別に自動電子ファイリング

■ こんな効果が得られました

- ・四日市・松阪の両拠点における紙資源について、年間約20,000枚の削減効果につながった。
紙1枚当たりの単価=0.58円
 $20,000 \text{ 枚} \times @ 0.58 = 11,600 \text{ 円/年}$
- ・ファイリングに係る作業時間の削減
1ファイルにおける削減時間 約300秒→60秒（80%ダウン）
- ・紙ゴミの搬出および廃棄コストの削減、キャビネットの有効利用、キングファイルの削減効果にもつながった。

■異常値ワークフローによる資源の削減

分析結果の基準値超過、推移異常が発生した場合、営業から顧客に連絡し対応の判断を仰ぎます。

しかし営業部が本社に移転してから異常値報告書が営業員の手元に届く時間が以前より遅くなるという問題が発生しました。

この問題を解決する為に異常値報告を電子ワークフロー化することで、タイムリーな情報伝達と紙資源の削減につながりました。

従来イメージ

改善イメージ

分析者
分析結果登録時
異常値連絡書を発行



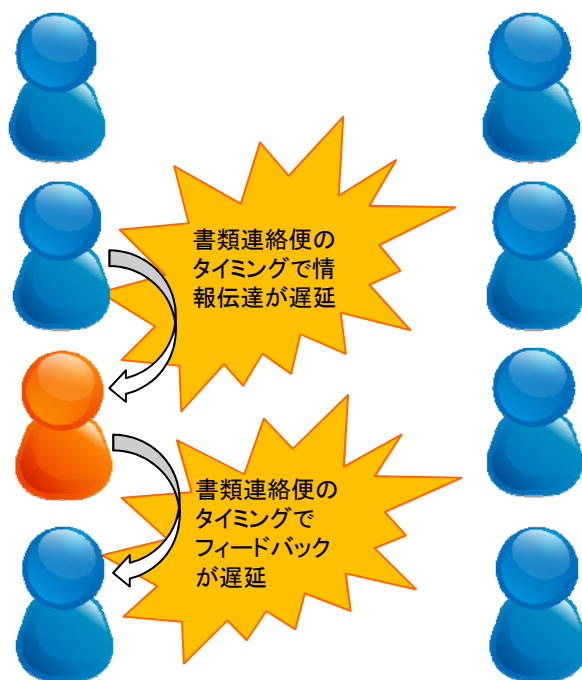
分析責任者
分析者の異常値検証
結果を確認し承認



担当営業
異常値を顧客に報告
し対応判断を仰ぐ



計量管理者
顧客の要求情報を元
に再分析や報告書発
行を指示



承認・確認依頼がシステムで表示されるため、見逃しや紛失の恐れはなくなった。

情報伝達の遅延がなくなり、顧客へタイムリーに情報伝達できる為、その後の対応もスムーズ。

フィードバックが早くなった為、その後の指示もスムーズ。
また、承認フローのステータスが一目で判るようになった。

■こんな効果が得られました

- 書類を電子化する事で、確認者・承認者の書類閲覧時間がタイムリーになった。
顧客への連絡や、その後の対応がスピードアップし顧客にとってもメリットにつながった。
- 書類を電子化する事で、既に導入していた報告書の自動ファイリングに従来の異常値連絡書を電子化し、同時にファイリングする事にした。
報告書の履歴を閲覧する時に異常値情報も同時に知る事ができるようになった。
- 四日市・松阪の両拠点における紙資源が、年間で約10,000枚削減することができた。
紙1枚当たりの単価=0.58円 10,000枚 × @ 0.58 = 5,800円/年

■送付案内のTech化による業務効率化・経費の削減

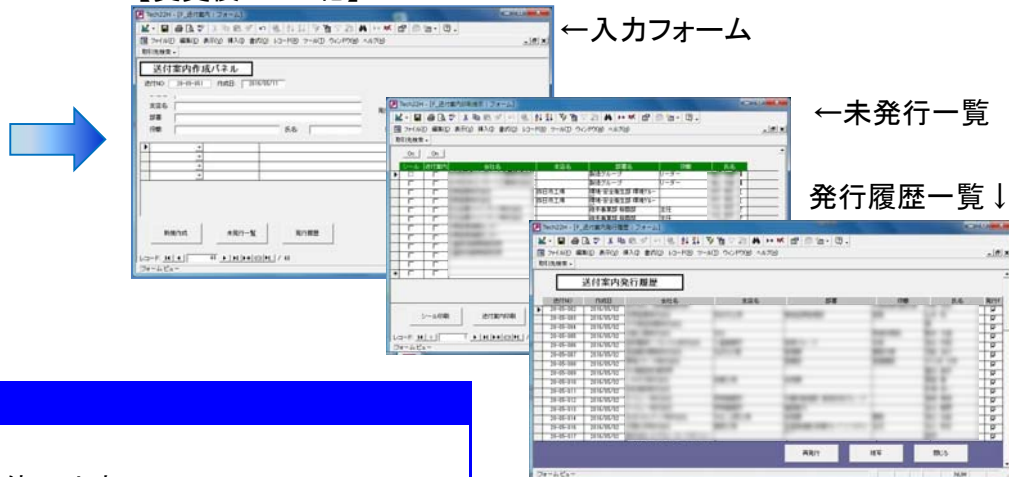
客先への郵送物については手書きの送付案内を添付していましたが、件数も多く、過去の発行履歴を探す際にも時間が掛っていたため、Tech22の顧客情報と連動した新しい送付案内作成ツールの検討を開始しました。

手書きからの時間短縮と、納品書と同じ用紙を使う事によるコスト削減・在庫管理の簡略化、電子ファイル化による検索機能の有効活用を目的とし、Tech化のメリットとコストダウンの効果の実証を行ないました。

【変更前/手書き】



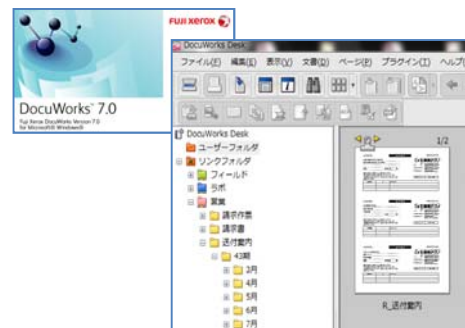
【変更後/Tech化】



■こんな効果が得られました

- ・手書きと同じような書式で使いやすい。
 - ・手書きよりも時間短縮できた。(約6割減)
 - ・送付案内作成と同時に宛名シールの印刷も可能になった。
 - ・印字により視認性が良くなった。
 - ・納品書と共通の用紙使用で、送付案内の在庫管理が減った。
 - ・客先からの発送問い合わせの対応の時短に繋がった。
 - ・導入後の4月～12月の9ヶ月間で1,660枚の発行を行なった。
- 用紙代・人件費は1枚あたり47円の削減効果があり、9ヶ月間で約78,000円の経費・人件費削減となった。

控への電子ファイリングと検索機能↓



■事務服廃止に伴うクールビズ・ウォームビズの推進

会社より支給していた女性事務服がメーカー廃番となってしまったため、これを機に事務職の私服化を提案。黒ジャケットのみ支給し、その他各自対応としました。

各々その日の体調に合わせた暑さ・寒さ対策が行えるため、事務所内のエアコン(夏場28℃、冬場20℃)でも快適な作業環境が得られているとの意見がありました。

会社支給ジャケット



「地域社会へ貢献したい」その思いを形にするために

自社の環境負荷低減だけを目指すのではなく、当社の製品である分析結果を活用されるお客様との関わりの中で環境負荷低減を推奨していくことが、当社にできる最も大きな役割ではないかと考えております。

日々発信される新しい環境規制や環境ニーズを必要とされるお客様に情報提供することで、個々の事業において環境管理の在り方を考え、維持していただければより社会全体の環境貢献へ繋がるのではないかと。そんな想いで発行を始めたニュースレター『かわせみ通信』の発行も6年目を迎えましたが、担当部署の営業部では今年度、「CS営業部」「開発営業部」と大きく組織改編しました。CS営業では既存のお客様への貢献を更に強く、開発営業では次世代に繋がる新規事業の開拓を目指し、さらなる環境改善活動に取り組んでいきます。



環境管理情報の収集と顧客への提供（環境セミナーを開催）

旧来の環境管理といえば公害対策が中心でしたが、近年では環境保全、従業員保護など求められる内容の法律は変わってきております。今回は、当社の視点で今後求められていく環境管理についてわかりやすくまとめた内容にてセミナーを開催しました。

第1部は次年(2016年)度6月施行となる改正労働安全衛生法の中で、リスクアセスメントの考え方や対応について、第2部では四日市市で今年(2015年)度1月施行となる臭気規制についてなど、改正される法規制動向を中心に行いました。



- 開催日時 2015年11月20日(金)
 - 会場 四日市市商工会議所 1階ホール
 - プログラム
 - 第1部 「化学物質のリスクアセスメントの考え方と対応」
 - 第2部 「四日市市条例:臭気規制について」
 - 第3部 「最近の環境関連情報より」
- 水質汚濁防止法・土壌汚染対策法 等

【107団体・157名参加】

今回のプログラムは多分野に渡る企業が関連するため、今回初めて参加いただける企業が増え、参加団体、参加人数も大幅に増加する結果が残せました。内容にもご満足いただけたようで、今後もタイムリーで興味をもっていただける内容の企画で継続していきたいと考えます。

環境セミナー
平成27年
新たな労働環境の管理指標
環境情報動向提供

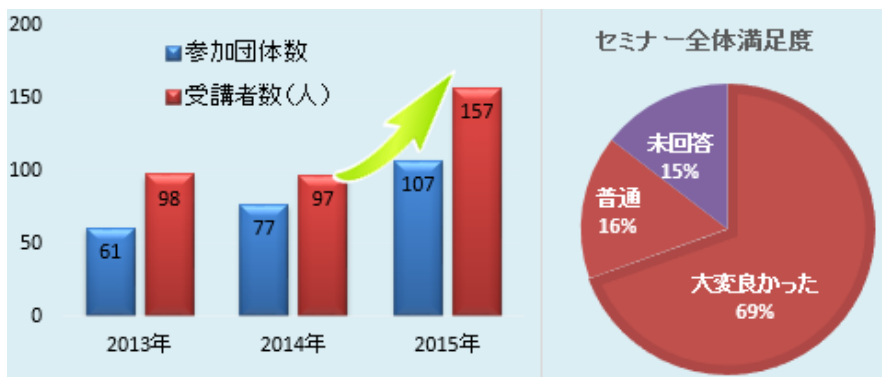
開催日時 2015年11月20日
13:30~16:30(開場12:50)
会場 四日市市商工会議所 1階ホール
http://www.gokaseichikan.jp/seminar/

第1部 13:30~15:00
「化学物質のリスクアセスメントの考え方と対応」
講師: 田中 浩二(環境省)

第2部 15:00~15:10
「臭気規制の導入について」
講師: 田中 浩二(環境省)

第3部 15:10~15:30
「最近の環境関連情報より」
講師: 田中 浩二(環境省)

参加費 1,000円(税別)
お申し込み 11月10日まで
お申し込み先 環境省 環境政策課 環境政策課長 田中 浩二
TEL: 03-3508-1111 FAX: 03-3508-1112
URL: http://www.gokaseichikan.jp/seminar/



月刊ニュースレター『かわせみ通信』の発行

当社とお客様との関係をより良くするため、間接的にでも仕事のお役に立てていただけるような情報配信を心がけニュースレターを月1回作成しております。発行し始めてから約6年、編集員にも新たなメンバーを追加し、460名以上の方へ配信し続けています。

【2015年4月号】

補助金やトップランナーモーター制度を紹介し省エネルギーに対する情報を提供しました。



【2015年10月号】

弊社主催の環境セミナー情報を掲載しました。



【2015年11月号】

環境省主導の「Fun to Share」活動に参加したことを宣言し、その紹介を行いました。



【2016年1月号】

少量の有機溶剤の使用について、作業環境測定の実現性を伝えました。



ISO2015改定への周知活動

今年はISO9001及びISO14001の規格が改定されました。

2014年4月のISO9001 DIS規格発行から始まり、FDIS規格、ISO規格の発行を経て、2015年11月にJIS規格(JIS Q 9001及びJIS Q 14001)が発行されました。

弊社でもニュースレターやホームページなどで、規格改定の情報を発信しており、弊社主催のISO内部監査員養成セミナーを2015年版に対応すべく、テキスト等の改訂を進めています。

旧版、2015年版のそれぞれの要求事項の体系と主な改定ポイントを織り交ぜながら比較対応をすることで、両方の規格に対応できる講習といたします。



開催日時	2015年 10月1日(月)・4日(木)	9:00~17:00
1日目	2015年10月1日(月)・4日(木)	9:00~17:00
2日目	2015年10月1日(月)・4日(木)	9:00~17:00
3日目	2015年10月1日(月)・4日(木)	9:00~17:00

環境負荷低減に繋がる設備販売に基づくCO₂削減への貢献

省エネルギーをさらに進める国の取り組みとして、今年度も様々な補助金の制度の実施や規制の追加が行われました。その補助金制度について、営業員による訪問やニュースレターを通じて周知活動を行い、成果が得られたことにより、CO₂削減に繋げることの一助となることができました。

N社への導入事例

平成26年度補正予算 地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金
(最新モデル省エネルギー機器等導入支援事業 A類型)」を活用

ボイラ 2台を更新
燃料効率 87%
(燃料・電気)

CO₂削減量
267.1t/年



杉の木 約19000本が1年間に
吸収するCO₂量に相当



チームタケエイによる活動について(アスベスト調査)

2012年にタケエイグループの一員となって、約3年が経ち、共同して一つのプロジェクトを進める案件も増えてきました。
それぞれのグループの特色を最大限に活かしたグループ総合力でお客様に安心していただけるよう今後も取り組んでまいります。



アスベスト調査【測定・分析】

アスベスト
除去工事



環境汚染・環境負荷低減につなげたい (Fun to Share)

環境省が2014年からこれまでの地球温暖化防止国民運動に代わる新たな気候変動キャンペーンとして「Fun to Share」をスタートさせました。「目標に向けてガマンしながら必死に頑張るのではなく、毎日を楽しく暮らしながら、低炭素社会を作ろう」という発想の活動です。

当社でも「COOL BIZ」「エコドライブ」などの取り組みを進めていることから、この「Fun to Share」に賛同し宣言を行いました。

今後従来からのISO14001の活動と合わせて取り組みを進めていきます。

現在までの
Fun to Share宣言数 **6,299** 宣言

新たに加わった賛同企業・団体

> 賛同企業・団体一覧

Fun to Share
最新イベント&レポート

様々なイベント情報や、賛同企業・団体取材した記事をご紹介します

> イベント&レポートページ



社会貢献活動への取り組み(地域開催イベントへの参加)

「Mie子どもエコフェア」 日時：2015年7月18日、19日
場所：鈴鹿山麓リサーチパーク

夏休みの恒例となった「Mie子どもエコフェア」へ今年も出展いたしました。環境・エコのことを『たのしく、わかりやすく、もっとふかしく』親子で体験できるイベントです。当社は工作ブースに出展しました。

「プラコップホルダーを作ろう!」と題して、使い捨ての「プラコップ」に絵を描いてもらい、オーブントースターで熱して収縮させ、オリジナルのキーホルダーを作ってもらっています。

平面になることを予想して、立体のプラスチックコップに絵を描く子供達の姿は、いつ見ても、とても純粋で好ましく感じます。

予想通りにならない楽しさを、体験してもらえたらと思いました。



社会貢献活動への取り組み(地域清掃活動ほか)

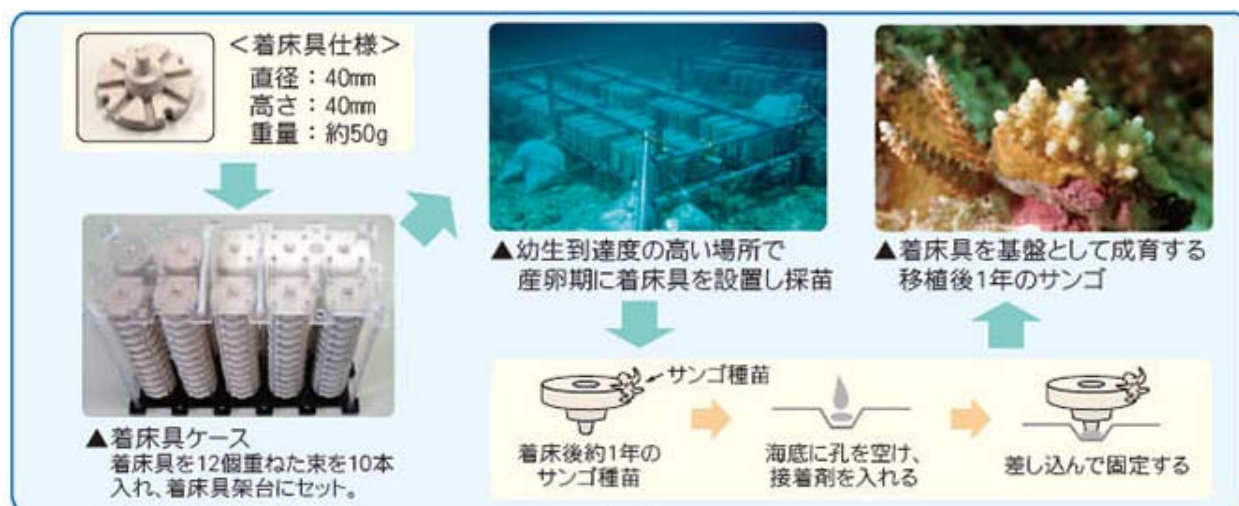
おなじみの地域清掃活動を今年は4月と11月に実施しました。

本社(四日市市午起2丁目)と、四日市分析センター(四日市市午起1丁目)、松阪分析センター(松阪市若葉町)にて、各拠点の勤務者が周辺地域のゴミを拾い、草を刈り、側溝を清掃しました。

防災訓練は12月に実施し、救急救命講習等、実際の事故に遭遇した場合を想定して訓練しました。



環境保全の総合コンサルタント会社 いであ株式会社が2004年より着床具を用いて従来の移植とは異なり、サンゴを傷つけることなく、サンゴ礁の修復・再生事業を実施しています。この着床具はセラミックで出来ていますがサンゴの着床率が50%程度となっています。この着床具に弊社が研究課題として取り組んでいるカキ殻素材を塗布することによる着床率の向上をめざし、微力ながらも世界的に減少が危惧されているサンゴの再生に関連する取組を2015年5月に開始しました。



資料元：いであ社HPより



弊社にてセラミック素材上にカキ殻素材を塗布した着床具の作成状況





お問い合わせ

株式会社 東海テクノ ISO事務局

〒510-0023 三重県四日市市午起1丁目2番15号

TEL:059-340-7767 FAX:059-333-8055

URL <http://www.tokai-techno.co.jp/>